

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成29年2月9日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0891600017		
法人名	有限会社 モリ・ケア・サービス		
事業所名	グループホーム いわまの郷	ユニット名	Aユニット
所在地	〒319-0202 茨城県笠間市下郷6004-1		
自己評価作成日	平成28年9月30日	評価結果 市町村受理日	平成29年3月3日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kihon=true&JigyosyoCd=0891600017-00&PrefCd=08&VersionCd=022
-----------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成28年11月16日	評価機関 決済日	平成29年2月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

自然に囲まれたホームでは、季節折々の景色を楽しむことができ、室内でも季節を感じられるように、入居者様と一緒に掲示物などを作成しております。ホームは、平屋建てになっており、2つのユニットの入居者様が自由に出入りしやすいようになっています。ホームには、ウッドデッキがあり、天気の良い日には洗濯物を干して頂いたり、日光浴をしたりしています。日々の入居者様の体調や変化に気を配りながら、家庭的な生活が送れるような支援に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所では地域密着型サービスの意義を踏まえた5項目の理念を作成し、管理者と職員は理念にそって利用者を尊敬し笑顔で接しながら、今までと同じような暮らしができるよう支援している。理念の他に、管理者と職員で毎月目標を掲げ、サービスの質の向上に努めている。近隣住民の依頼を受けて、ピアノの発表会やバザーなどのチラシを事業所に置いており、バザーの次回開催時には、事業所の敷地を利用してもらうよう促すなど、地域に密着した事業所となっている。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム独自の理念を掲げ、会議等でも理念の確認を行い、玄関入口にも掲示をしている。また、毎月の目標を掲げ、それを実践している。	地域密着型サービスの意義を踏まえた基本理念を作成し、玄関に掲示するとともに、新人研修や月1回の職員会議の際に確認しながら実践につなげるようにしているが、毎月掲げる目標に埋もれて全職員で理念を共有するまでには至っていない。	全職員が理念を共有しながら実践できるように工夫することを期待する。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のボランティアの方の協力により、月2回の傾聴ボランティアや折り紙教室など行っている。敬老会には、地域の方の演奏会などを企画している。	事業所は自治会に加入しており、地域の祭りの獅子舞が事業所に立ち寄るほか、小学校の通学路に面しているため、小学生がトイレを借りに来たり、中学生の職場体験を受け入れるなどで、地域の子ども達ともふれ合っている。 月2回の傾聴ボランティアや楽器演奏、2ヶ月に1回の折り紙教室などを支援している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	いつでも地域の方々から、介護に関する相談や意見をお伺いし、認知症の方の理解や支援の相談を受けている。	/		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、入居者様とホームの状況を報告し、出席者の方々から意見を伺った上で、サービスの向上に活かしている。	運営推進会議は家族等の代表や市職員、民生委員、地域住民、代表者、管理者、職員で2ヶ月に1回開催し、議事録を作成している。 事業所からは行事や利用者の状況報告のほか、事業所の取り組みなどを報告し、参加者と意見交換を行っている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入居の相談等必要に応じて、市担当者との連絡を取り、協力関係を築くようにしています。	市担当者が毎回運営推進会議に出席しているほか、管理者は電話だけでなく、要介護更新申請や空床状況の報告などで直接市窓口に出向き、入居相談の依頼を受けるなど、情報交換をしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしない取組みを全職員が理解し、会議や毎日の申し送りのときに、気になることがあれば、話し合いの場を設けております。	施設会議時や申し送り時に身体拘束について話し合うとともに、身体拘束廃止に向けたマニュアルを作成して年1回内部研修を実施し、全職員が身体拘束となる具体的な行為について理解している。 やむを得ず身体拘束を行う場合に備え、同意書や経過観察記録等の書類を整備している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について、会議等にて学ぶ機会を持ち、不適切なケアをしていないか、職員間で注意を払い、虐待が見過ごされないように防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者様の希望や必要に応じて、話し合いを持つようにしている。会議等で、学ぶ機会をもうけている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、重要事項説明書・契約書についてわかりやすく説明している。また、分からない点や、疑問点があるときには、重ねて丁寧に説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族との面会時や電話連絡時には、利用者様の状況を話している。家族の要望や希望についても聞かせて頂き、日常の生活に活かしている。	重要事項説明書に苦情相談受付窓口を明記するとともに、事業所内に掲示するなど、家族等に意見や苦情を言える機関を周知している。 家族会という組織はないが、年1回敬老会後に家族会と家族アンケートを実施しているほか、面会時や電話などの際に意見や要望を聴くように努めている。 家族等の意見を受けて、訪問歯科診療の受け入れを実施している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の会議において、運営に関する現状や提案などをあげて話し合い、業務に反映している。また、気がかりな点などある場合には、その都度対応している。	管理者は日頃から話し易い雰囲気づくりをするとともに、月1回の施設会議や年2回の職員面接で職員の意見や要望を聞く機会を設けている。 職員からの意見を受けて、行事や病院への付き添い、入浴などの業務を担当制にして運営に反映させている。 管理者は日頃から職員に話しかけてコミュニケーションを図り、職員が意見や提案を出し易い環境づくりに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の勤務体制を維持し、職員の資格取得により、給与水準の見直しを行っている。また、勤務状況や実績を把握し、働きやすい職場環境に努めています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に参加することや、会議時に勉強会を行うことで、知識が身につくように努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	笠間市主催の連絡協議会への参加や社協の行事や勉強会に参加することで、交流を深めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ホームの見学時や入居前の面談時に、ご本人やご家族から話しを聞き、生活状況を把握し不安なことや要望を聞きする中で、安心できるような関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前のホーム見学時や、契約の際に話を聞き、ご家族が困っていることや要望に耳を傾け、信頼関係を築けるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族から話しを聞き、生活の中で必要と思われるサービスがあれば、話し合いの中で取り入れるようにしています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様と暮らしを共にする関係を大切にし、生活の中で本人が得意なことや好きなことを取り入れたりしています。洗濯や掃除など手伝って頂いております。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様と家族の絆を大切にし、利用者様や家族様の希望があれば、いつでも連絡をつないでいます。外出や外泊の援助も行っております。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の馴染みの方が、気軽にホームへ来て頂けるような雰囲気作りを心がけ、関係が途切れないように、ご家族の協力を得ながら支援に努めています。	利用者の日々の会話や家族等から話を聴き、利用者が築いてきた馴染みの人や場所を把握するように努めている。 利用者の友人や親戚が来訪した際には、お茶を出して居心地よく過ごせるよう配慮するほか、馴染みの理・美容室や店への買い物に同行したり、家族等の協力を得ながら外食や自宅への外出・外泊、墓参りに行くなど、これまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日のレクリエーションや季節毎の行事の中で、常に利用者様同士の関わり合いの仲で、楽しみが持てるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、必要に応じて相談や情報提供に協力し、支援していきます。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の会話や生活の中で、思いや希望を把握するように努めています。困難な場合は、本人の表情に気を配り、本人本位の支援ができるように職員間で話し合い、意向の把握に努めています。	管理者と職員は、利用者の表情や仕草、態度などから一人ひとりの思いや希望の把握に努めるとともに、連絡ノートで周知して全職員で共有している。 意思の表出が困難な利用者の場合は、家族等の来訪時に話しを聴いたり、表情や仕草から思いや意向の把握に努め、利用者本位の支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、ご本人と家族に生活歴や馴染みの暮らし方を聞いています。日々の会話の中からも把握するように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの1日の過ごし方を把握し、個別ノートやチェック表などから、心身状態の把握に努めている。また、いつでも変わったことがあれば、連絡ノートや申し送りなど職員に伝えている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にモニタリングをおこない、変化があった際には職員間で意見を交換し、家族の意向を踏まえて、介護計画を作成している。	介護計画は家族等の意向を取り入れながら、管理者や計画作成担当者、担当職員で話し合い、計画作成担当者が作成して家族等の来訪時に周知している。 モニタリングと短期目標は6ヶ月毎、長期目標は1年毎に設定し、利用者の心身の状態等に変化が生じた場合は、随時モニタリングを行い、見直しをしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の気づきやケアの内容を、個別の記録に記入し、職員間で情報を共有し、介護計画や実践の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族との話し合いをもち、利用者様一人ひとりに合ったサービスを提供している。また、その時の状態や希望などからサービスの見直しを行い常に最善の支援が出来るように取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月2回の傾聴ボランティアや2ヶ月に1回の折り紙教室の先生方の協力を得て楽しみを持った生活ができるように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な病院受診を行い、安定した体調で過ごして頂いている。また、体調に変化が見られたときには、その都度病院受診をおこない早期に対応している。受診結果は、家族に報告をしている。	契約時に利用者や家族等に希望するかかりつけ医への受診が可能かことや、協力医療機関の医師をかかりつけ医にできることを説明し、確認を得ている。 かかりつけ医への受診は職員の付き添いを基本とし、家族等の要望があれば一緒に付き添うなど、個々に対応している。 受診結果は家族等に電話や面会時に報告するとともに、受診ノートに記載して全職員で共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活の中で普段と変わった様子やバイタルなどに変化があれば、すぐに看護職員に報告し適切な対応ができるように支援している。また、家族等にはその都度連絡をとり状況を説明している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先と情報交換をし、ご家族とわかりつけ医に相談しながら早期に退院ができる様に努めています。入院時には、職員が面会に伺い、様子を把握できるように努めています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期については、ご本人様ご家族様との話し合いの中で、方針などを確認して頂き、同意した中で支援させていただきます。	「重度化・終末期・対応指針承諾書」にて入居時に家族等に説明して同意は得ているが、現在はまだ看取り介護を実施できる体制ではなく、看取り介護を行うか行わないかの部分が曖昧になっている。 「重度化・終末期対応マニュアル」を作成しているが、職員の内部研修を行うまでには至っていない。	「承諾書」の内容を見直して事業所でできることとできないことを明確にし、それにともなって職員の内部研修を行うことを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応など、看護職員などと話し合っており、マニュアルなど作成している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、日中と夜間を想定した消防訓練を実施しております。避難訓練後には、反省会をおこない安全に避難できるように支援している。	消防署立ち会いや夜間想定を含めた避難訓練を年2回、地域住民の参加を得て実施しているとともに、訓練の記録を作成して課題について話し合っている。 災害に備えて米や水、食料品、懐中電灯、おむつ類等を備蓄している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本理念の「尊敬と共感を持って一人一人寄り添う介護」を念頭に、ご本人の気持ちを考え、その人にあった声かけを心掛けて支援している。また、会話の中でも誇りやプライバシーを損なわないよう話題などにも注意している。	職員はトイレ誘導や入浴介助の際は、声かけに気を配ったりドアを閉めるほか、居室内におむつやパッドが見えないように箆笥にしまったり、ポータブルトイレには布をかけるなど、常に職員で話し合っって利用者の羞恥心や自尊心に配慮したケアに取り組んでいる。 契約時に利用者家族等から個人情報に関する同意を書面にて得ているが、写真の掲示や掲載について同意を得るまでには至っていない。 個人情報に関する書類は、事務室の鍵のかかる書棚に保管して情報漏洩に留意している。	早急に写真の掲示や掲載についても書類を整備し、家族等から同意を得ることを期待する。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、何でも話し易い雰囲気をつくり、話したい様子があればこちらからやさしく丁寧に傾聴を行い、思いや希望を聞かせて頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのその人らしい生活を把握し、その日、その時のご本人の気持ちを尊重してペースに合わせた対応を心がけ支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみや更衣はお手伝いさせて頂き、本人の好みや愛着のある物などを尊重し支援している。定期的な訪問散髪により整髪している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や後片付けなど、家事手伝いが可能な利用者様には、職員と一緒にコミュニケーションをとりながら楽しく行って頂いている。	献立は宅配業者が作成し、職員が自家菜園で採れた野菜を取り入れながら食事が楽しめるよう配慮して調理をしている。 正月にはおせちや誕生会には誕生日御膳などの行事食を提供するほか、家族等対応や行事時に外食に出かけている。 利用者はできる範囲で野菜の皮むきやテーブル拭き、食器洗いなどを一緒に行っており、職員は利用者と同じテーブルに着いて食事介助をしたり、楽しく話をしながら同じ食事を摂っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事はおいしく食べて頂ける様に食事形態などを看護職員を交えて話し合い決めている。毎食時の摂取量や水分量をチェック表に記入し体調管理に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事の後や就寝前に口腔ケアを行って頂き、本人のできる範囲、その人に合わせた見守りや介助で対応している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用しながら、一人ひとりの排泄パターンを把握し、利用者様に合わせた支援をしています。トイレに行きたい素振りや訴えがあれば、すぐに対応しトイレでの排泄を心掛けています。	職員は排泄チェック表を活用し、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握するとともに、利用者の仕草やサインから察知してさりげなく声かけ誘導し、できるだけトイレで排泄ができるよう支援している。 職員の適切な声かけにより、おむつからリハビリパンツやパッドに改善した利用者がある。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	できる範囲で、歩行や運動などを行い便秘の予防に取り組んでいる。また、1日の水分摂取量や排泄状況などから排便コントロールを行い気持ちよく排泄ができるよう支援している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	本人の体調や意向に合わせた入浴の支援ができる様に努めています。週3日の入浴日以外にも希望や状況に合わせた入浴が楽しめるように支援しています。	入浴は週3回の午前と午後を基本としているが、利用者の希望にそっていつでも入浴ができる体制となっている。 入浴を拒む利用者には無理強いせず、職員や時間帯を変えたり、清拭や足浴などで対応するなど、工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後や体調に変化があるときには、いつでも休息できるように支援している。また、日中、夜間共に居室は落ち着いた環境を作り、安心して休めるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとり服用している薬の説明書を、個人ファイルで管理し、目的や副作用について確認できるようにしています。薬の変更や追加・減量などがあれば、申し送りや連絡ノートを活用し情報の共有を図っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりできる事や得意なこと、洗濯物や食事の用意など生活の中で、役割や手伝いをして頂く事で、楽しみや喜びを持って過ごせるように支援している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間行事の中で、県庁ツアーや買い物、イオンモールにショッピングに出かけています。また、家族の協力により外出や外泊などをされて、自宅に戻られたりする機会をもうけている。	車いすの利用者も一緒に初詣や花見、内原イオンへの買い物、県庁ツアーなど、利用者の意見を取り入れながら担当職員が年間行事計画を立て、四季の移り変わりを肌で感じたり、気分転換ができるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームでお預かりしている小遣いの中から、ご本人の希望に応じ家族や職員同行の下買い物などができるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や大切な方の声を聞きたいときには、いつでも電話をかけて安心して頂いている。手紙のやり取りもできる様に支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールは、天井が高く光を多く取り入れる事ができ、明るく清潔な環境で心地よく過ごせるように支援している。玄関や廊下には季節の花や利用者様と協力して作った作品などが展示してある。	事業所は平屋建てで廊下は広く、ユニット間の移動がし易い造りとなっており、玄関には利用者や職員で制作した月毎の季節の貼り絵が飾られているほか、行事予定表が掲示してあり、面会者に一目でわかるようになっている。 居間兼食堂はログハウス調で天井が高く、開放的で明るくなっており、掃き出し窓からはウッドデッキにつながって、自家菜園を眺めながら季節を感じることができる。 Aユニットには小上がりの和室、Bユニットにはソファを配置し、思い思いに寛げる空間となっている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居心地良い場所や落ち着ける席で、ゆっくり思いのまま過ごしたり、気の合う同士で楽しく過ごせるようにソファや席のレイアウトも工夫している。	/		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、ご本人とご家族と相談し、馴染みのある家具や飾りを持ち込んで頂き、居心地よく過ごせるように工夫しています。	居室にはエアコンやベッド、洗面台、カーテン、整理箆箆などが備え付けられている。 管理者は使い慣れた物品を持参して貰えるよう説明しており、利用者は家族等と相談しながら使い慣れた寝具類や衣装ケース、テレビ、箆箆、目覚まし時計、家族の写真、位牌、手作り作品などを持ち込んで、自宅に居た時と同じ設えになるよう工夫している。	/	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分らしく生活して頂く為に、自由に居室やホールを行き来していただき、トイレや居室などはわかり易く名札を掲示している。必要以上の介入はせず、見守りなどで対応するように支援している。	/		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	1, 毎日ある ○ 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ全ての家族と ○ 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ毎日のように ○ 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている ○ 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○ 1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム いわまの郷

作成日 平成29年2月15日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	1	毎月に掲げる目標に埋もれて全職員で理念を共有するまでに至っていない。	職員全員が、基本理念の意味を理解し、共有する。	基本理念の意味を理解して頂ける様に、会議や朝の申し送り時に、説明をしていく。 全職員が理念を共有しながら実践できるよう工夫する。	平成29年4月から
2	12	承諾書の内容が事業所で出来ること出来ないことが、明確に示されていない。	承諾書の内容を明確にする。	承諾書の内容を明確にし、その内容を元に、家族に説明を行う。	平成29年4月から
3	14	写真等の掲示や掲載について、家族等の同意を得ていない。	写真等の掲示や掲載について、家族等の同意を得る。	家族等がホームに来られたときなどに、同意を得る。	平成29年4月から
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。